

盛夏の前に

五月の初めから全国的に気温の高さが続き、まだ本格盛夏に届いていないが、「熱中症」の搬送されたところ、ニュースが毎日流れてくる。

気温の高い所にいると、暑さを体感のコントロールがうまくいかなかったり、熱が体内にこもってしまうと発症するのが熱中症です。

I. こんなことがありました

1. ナメロの時間、車内の乳児が亡
平成22年5月、午後6時の夏男車内に放置したまま入ロトマシンに養育中になり熱中症で死亡させたとして26歳の主婦が逮捕された。

2. かんかんばつ4歳児本棚を熱中症で
平成17年8月、かんかんばつとしていた4歳の保育園児が本棚の中で発見され、1時間後に死亡しました。その日その町の最高気温は30.5度でした。

II. 知ってしまおうか

1. 車内の温度
JAF(日本自動車連盟)は、車内温度の危険性を周知するため、平成19年4月、車内温度テストを実施しました。

その日は雨が降り、外気温3度の遠く、天候でしたが、車内温度は最高気温が30度、最低気温が20度、最低気温が10度、最低気温が7.8度、最低気温が4.8度という驚きの結果が測定されました。

2. ビーチカーは危険

ビーチカーは押して歩く大人に比べ、路面に近い乳児の体温温度は高く、気が付かないうちに脱水症や熱中症を起す危険があります。

日射と直射日光を避けることも、顔面は大人より3度、外気より5度高いという調査データがあります。また日射しを避けるため、タオルなどでビーチカーの前向きを覆ってしまふと、内側に熱がこもることもわかりました。

それ以外

III. 子どもの熱中症を防ぐポイント
1. 子どもの顔が赤く、汗がまみれに見える時は涼しい体温上昇のサインです。涼しい場所へ十分休息をさせよう。
2. 衣服を選びましょう
3. 水分をこまめに摂らせましょう
大人が声かけを30分、1時間毎に水分を摂らせましょう。

4. 日頃から暑さに慣れさせましょう
盛夏がやってくる前に、外でたくさん遊ばせて、体温調節機能を高めます。

夏夜に変わるこれからは、子どもたちは身軽になつて層着着に悩まなくて済みます。

六月はむし歯予防デーがあり、不審なところの虫歯検査、内科健診、歯科健診と続きます。子どもの健康管理は大人の責任として得て、良健康習慣が身に付くようにしましょう。

園長 福田孝子